

磐城時報

二十夕
日刊
編輯部
印刷部
發行部
電話
地址
訂價
廣告

田中内閣の顔觸れ決定

後繼内閣組織の大命を拜受した政友會總裁田中義一氏は十九日以來直ちに組閣に着手し昨夜十一時閣員を決定したが二十日午後一時閣員一同宮中に参内し、聖上陛下は親任式を行はせられた、閣員顔觸れ左の如し。

内閣總理大臣	田中義一
兼外務大臣	鈴木喜三
内務大臣	高橋是清
陸軍大臣	宇垣一
海軍大臣	岡田啓介
文部大臣	三土忠造
司法大臣	原嘉道
農林大臣	中山嘉二
商工大臣	中山嘉二
逓信大臣	中山嘉二
鐵道大臣	中山嘉二
内閣書記官長	小嶋圭吉
法制局長官	前田光
警視總監	宮田雄

小名濱商港實現は運動如何で決す

基本調査漸やく終了 國でも必要を認めてゐる

小名濱商港の準備調査について、料の蒐集に準備を盡す一方、貨物は縣土木課が舊藤原引續いて、材の集積等については、仙臺鐵道局處まで波及するが、知れぬは石

一日一先づ歸京する事になつた

八開するに是れによつて小名濱商港問題も愈々主務省に於て工部着手し意圖が内定したものの如く某消息通は小名濱の築港計劃は國としても認めてゐる處であるから地方民の運動並に熱誠如何によつて實現の速速が決定するわけである。

入山争議 經過概説

日本坑夫組合常磐地方聯合會で於ける貨物の出炭調査等を縣は二十日午後六時から平劇場での調査に基き基本的實地調査中入山炭礦争議經過報告演説會であつた事本報の如く、開き望月、石山、鈴木、高梨各がその調査も既に終了し二十氏の演説がある筈である。

常磐地方一帯を爭議化する謀議

前兆王城炭礦に現はる 一般が成行を注目

湯本町入山炭礦、磐崎村藤原三城地方に於ける一大打撃であるが、去る十七日夜湯本町日本坑夫組合宣傳委員田村勝美方に開かれた組合幹部の秘密會は、協議の内容及び注目を注目に及んだのみでなく、同所は爭議團側の參謀本部であるとの協定の内容は頗る注目されてゐる。傳ふる處によると、今後更に爭議の手を擴げる王城炭礦から漸次各坑に食ひ入り常磐地方の全炭礦に總罷業を決定せんとする謀議が行はれたらしく、既に王城炭礦の昨今は形勢漸やく惡化の狀を示して來たが組合會の計劃には可成りに深い考慮があるものゝ如く、一般では成行を連夜花見客で全山を埋むる盛況を示してゐるが、これ等電燈を町理髮組合總會は十八日午前九時から同町警察署に開いた

事件頻發の石城地方 平署増員説起る

礦山警察設置は不可能だ 來平した藏重警察部長談

平署は管轄區域が廣いので犯罪而し平署は他の署と比較しても多く署員も六十餘名居り縣下らない程事件が多いのであるが、各署中第一番であるが、最近警察官を増員する必要は充分の組合が組織されてからは争議が警察設置は重みがなければ平署隨時勃發しそれに炭礦地を中心に署員が増員される事になるに警備、町田坑の様な大惨事が起る亦内郷の五人殺しの様な殺人事件もあり縣下各署に比し三倍以上も事件が引續いて起きたので平署は警備署長を始め各署員が休む間もない程懸命に働いても他の應援を求めねばならない状態にあるので一般から礦山を中心とする炭礦地警察署の必要も叫ばれてゐるが、十八日來平して争議地湯本町に出張争議の模様を見た藏重警察部長は「礦山警察の必要もあらうが平署に警備及び警備を増置する事すら豫算の関係で出来ない事だから新に警察署を設置する事は不可能な事であると思ふ、

宮田氏の總監は適任

鈴木辰三郎氏談

元本縣知事宮田光雄氏が警備總監に就任したに接し石城政友支部幹事長鈴木辰三郎氏は「宮田氏の警備總監は全くの適任である、同氏は本縣に深い關係があるから同氏就任は誠に遺憾である」と。

爭議團の横行で當惑した湯本町

十九日急施町會を開いて爭議區域縮少陳情

湯本町では去る十三日以來入山長、若波、宮平、石川、渡邊、炭礦の争議が勃發し同町裏町に鯨崎、菅波の各町會議員が委員ある日本坑夫組合入山支部を中心となり直ちに同町木村順平方に心として赤印をつけた爭議團員平山高等課長並に櫻村平署長とや之を脱ふ會社社立國自治會員訪れその取計らひ方を陳情した等右往左往し婦女子などはうかつかり外出しやうものならその忙がしさに跳ねばされさうな有様、かうした状態では何時町内に物騒な事件が起るかも知れぬといふので十九日午前十時から急施町會を開き協議の結果爭議區域を縮少して欲しいと高木町

切角の廣告燈にイタズラする不埒な奴

平署で嚴罰に處する方針

平町松ヶ岡公園と新川端には平をなす者あり平警察署では之等消防組の奔走で廣告燈千余個、公徳心に欠けた者を發見次第嚴罰に處する方針である。

植田理髮總會

植田

急施町會を開き協議の結果爭議區域を縮少して欲しいと高木町

賭博二一件

湯本町字傾城小島庄一(三七)外十數名は十七日夜小島方で車座となり花合せ賭博平署に捕はる。

高橋氏出發

平支局長高橋要次氏は病氣のため退職と決し郷里宇都宮市に歸り専ら静養する事になつたが、同氏は二十一日午前六時五十分平發で出發する。

三十圓持逃げ

町新町漁業家菅波末吉方雇八朝鮮人鶴崎(一九)は十五日午前十一時三十分主人の命で東京某商店、船具代三十圓の爲替拂込みに同會郵便局に行く途中悪心を起し、携帶逃走したのを時經で發覺し四倉署に訴へ出たので、行衛捜索中であるが朝鮮に歸國した模様である。

賭博二一件

湯本町字傾城小島庄一(三七)外十數名は十七日夜小島方で車座となり花合せ賭博平署に捕はる。

時事片々

▲當然の歸結也
西園寺公が只一人の元老として、内閣の首班を奏薦すべき大責任を負ふ上に於て、常に深甚の注意を加へ居るべきは、今更疑ふの餘地はない、殊に公自身に於て其死後元老御下問の慣例を廢するの希望を有すべしと傳へらるるに見れば、公が常に至公至平の氣を持し、單純直截なる理據に立つて事を決するの立憲的先例を作らるゝに意ある事も明かに想像される、而して今回の奏薦に至つては公平素の用意を見るべく、政友會に好感を有する者と否とに拘らず之を以て大体當然の歸結となすであらう。

▲新内閣の前途

然し新内閣の前途は決して平坦ではない、第一に當面の問題として財界安定の大難事がある、前内閣の施設に反對したる政友會は如何にして之を切抜けんことをか、第二に支那の問題は田中男爵の擡揚なるべきも、而も彼我軍閥の握手の如きは我國民の迷惑とする所因中男爵の一步を過まらば内閣の致命傷たるのみならず又實に我國の大損害である、其他種種政策を唱ふる者も餘り輿論の歡迎は受けない、地租委譲に至つては到底之を實現す可からず、其壽命も決して樂觀すべきではない。

公。私。人。

- ▲堀江工業株式會社社長江口忠一氏 十九日夜歸平
▲縣會議員草野順平氏 十九日福島市行
▲岡小野平氏 鈴木小名濱長と共に於三月二十三日から三日間岡山市に開かるる全國港灣協會總會に出席する。

定期乗車券による通學者者調べ

何と言つても警中が親玉
夏分よりは少ない

平町附近各驛から在平諸官衙、學校、會社等に列車通學又は通勤するものうち定期乗車券によるものは三月末日現在の状況より約二百名を減じてゐるが、之は毎年冬期になると通學又は通勤者が減るためで四月頃からは増加する見込みである、何と言つても通學者の多いのは警中警高女で總數の半數以上を占めてゐる、距離から言へば富岡、高萩等が最も遠方である。

電報の心得(一)

平郵便局員談

電報は、どうして間違ふか。何故遅れるか。此の二つは、間違ひのない電報を、最も速かに、皆様の御手許に御届ける爲に、皆様に是非知つて置いて頂かねばならぬことであらう。

せられて居るので。山田では、配達掛が随分と何回も調べて尋ねめぐんで居る頃です。不都合千萬な話じやないかと。た叱りは暫く待つて下さい。急いで書く、兎もするとカマダがカマダになつて仕舞ふのです。

驚いた!!!

こうまで安いとは
一那納活版所の印刷物!!

◎臺所の歌

特派講師 杉林 大英雄
かねへらす人は砂にて鍋研ぎ
光りほしくは炭灰にせよ
花の咲く春はのぼせるものぞ
かし 酢味の料理は逆上引下
筍の皮や右まへ左まへ 取ら
すゆかかば左右多味あり

小商店員募集

尋常小學六年修業程度
ハ高等二學年修業程度
ノ者(十五才未満)履歴
書本人持参ノ事
平町四丁目十五番
警工業商會
電話一八八番

編輯日記

▲川崎常務社長、岡田新海相は君の父君だつたねとひやひや今朝、蒲田へ電報を打つたがまだ返事が出来ない。一体全体どうしたのだ、夕方のラッシュアワーになつて、いきなり局へ飛び込んで来て窓口で叫ばれる方があります。混み合つた中をやつと調べた結果は、た尋ねの電報は蒲田へは行つてゐない、山田へ発信

せせのぶく薬

治淋 新薬 ラウタール
其効顯著なるに實驗者は驚く
眞に淋病、消渴の特効新薬なり
惱み苦しむもの直ちに試み
必ず救はれん
定價 三圓也 重症用拾圓

三井吳服店
代理 山野邊藥局
平町五丁目角

特約店 平町四丁目 關内藥局 電話四〇番

好問村鈴木牛乳舎
皆様方には是非御覽願ひたい春ワイシャツ
特價物 一圓二十錢
賣切れにならぬ中に
紳士用 洋傘
婦人用 洋傘
春帽子 各種
平町四丁目(電話四〇番)
鶴屋洋品店